

3年社会科 臨時休業中の課題に対するアドバイス（1）

これから4回に分けて、教科書P.144～173の予習・復習を掲載します。教科書を読みながら、このアドバイスを参考にしてください。

1 近代国家の成立（ヨーロッパの市民革命と産業革命）【教科書P.144～149】

目標：17～19世紀のヨーロッパ諸国がどのように発展したのかを理解する。

(1) 絶対王政から市民革命へ（17～18世紀のヨーロッパ）

- ① 17～18世紀のヨーロッパ＝**絶対王政**
→国王がすべての権力を持ち、国王が軍隊をもっていた。
- ② 啓蒙思想の登場＝**ロック・ルソー・モンテスキュー**
→人々には自由があり、様々な権利をもつことを主張する。
- ③ **市民**（資本家）たちが、国王や貴族に対して自由や権利を求める＝**市民革命**

例) イギリス 1640年 清教徒革命
 1688年 名誉革命【権利章典（89年）】
 フランス 1789年 フランス革命【人権宣言】
 アメリカ 1775年 イギリスからの独立戦争【独立宣言（76年）】

※【 】に示されている文章は、国家（国王）に対して自由や権利を求めている証拠を示したものである。現在の日本国憲法と同じもの。

(2) 産業革命と19世紀のヨーロッパ

- ① 工場における機械生産などの技術の向上による**経済や社会の変化**＝**産業革命**

- ア) 産業革命のきっかけ＝イギリスにおける**綿織物**の流行
- イ) 綿織物の大量生産＝**蒸気機関**による工場での大量生産
- ウ) 綿織物などの商品を運ぶ動力として、蒸気機関が使われる。
＝蒸気機関車、蒸気船、軍艦など

- エ) **資本家**が資本（お金）をもって経営者となり、賃金をもらう**労働者**を雇って利益を追究する仕組みができた。＝**資本主義**
→資本主義の下では、労働者の過酷な生活が問題となる。＝労働問題

- ② 産業革命の動きは、イギリスからフランス、ドイツ、アメリカなどの国々に広がった。→1871年ドイツの統一【**ビスマルク**】



まとめ：17世紀に絶対王政が多かったヨーロッパ諸国では、市民革命を経て、市民（資本家）たちが自由や権利を得た。そして、産業革命により国が豊かになり、技術が向上した。

2 欧米のアジア進出【教科書P.150～153】

目標：ロシア、アメリカ、イギリスなどの国が、なぜ領土拡大を目的にアジア諸国へ進出したのかを理解する。

(1) ロシアの拡大（18～19世紀）

① ロシアは貿易をして、利益を得るためにアジア方面に進出する。

例) 1792年 ラクスマンが根室へ来航

② 19世紀に入ると、黒海や地中海の沿岸、中国東北部などに進出する。

＝南下政策 ※目的：ロシアは冬になると海が凍る。一年中凍らない港を求める。

●黒海、地中海沿岸にはどんな国があるか教科書P.150の地図や地図帳で調べてみましょう。

(2) アメリカの発展（19世紀）

① 19世紀に入ると人口増加、農業・工業が発展する。

※国外からの移民、領土の拡大（東部から西部への拡大）

② 東アジアに進出し、開国を促す。【1853年 ペリーが浦賀に来航する。】

③ 1861年 南北戦争

北部：資本家による工業中心 VS 南部：大農場主による綿花の栽培

※結果：北部の勝利＝1863年奴隷解放宣言【リンカーン】

(3) イギリスのアジア侵略

① 目的：イギリスで生産された工業製品を、アジアの国々に輸出しようとした。

※産業革命により、経済が豊かになり技術も発達した＝軍事力で他国を従わせる。

② イギリスと中国（清）の関係

ア) 当時の中国は、日本と同様に鎖国をしていた。

イ) イギリスの綿織物が売れない＝イギリスは損をしていた！

ウ) 自分たちの損失を小さくするために→植民地インドのアヘンを密輸しよう！

※教科書P.153にある「三角貿易」の図を参考にしましょう。

③ インド産アヘンの密輸が原因となりイギリスと中国の対立が起こる。＝アヘン戦争

→結果：清が破れ、イギリスとの間に南京条約が締結される。

※日本の日米修好通商条約と比較してみよう。

(4) インドの植民地化

① イギリスの産業革命後、安いイギリスの綿織物が入ってきた。

※結果、インドの綿織物業が打撃を受ける。

② インドの大反乱（1857年）が起こり、これを鎮圧したイギリスがインドを植民地にする。

まとめ：産業革命を経たヨーロッパ諸国が、豊かな経済と技術により軍事力で他国を従わせ、自国の工業製品を輸出する場所を求め、アジアへ進出した。